

《担当者名》志水 幸 [koh@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 向谷地生良 [ikuyoshi@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 大友 芳恵 [otomo16@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 橋本菊次郎 [hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp]

## 【概要】

臨床福祉学における高度実践に貢献し得る新たな知見を産出するための研究能力を獲得するための指導を行う。

## 【学修目標】

臨床福祉学実践研究の到達目標は、臨床福祉学実践研究の過程全般をつうじて高度な研究能力を修得し、自らが構想した課題に対して適用することができることである。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	社会福祉学原理	社会福祉学原理特論、社会福祉学原理演習等をつうじて修得した知見を踏まえ、社会福祉学原理領域に関連する修士論文を作成する。前半では、研究課題と研究デザインについて検討し研究計画書を作成する。後半では研究内容に関する精査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。以下は、論文作成までの流れである。 1. 研究課題の設定 2. 先行研究のレビューと学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの収集（介入・調査） 5. データの整理と分析 6. 論文の作成	志水
	障害福祉学	障害者福祉学特論、障害福祉学演習等をつうじて修得した知見を踏まえ、障害福祉学領域に関連する修士論文を作成する。前半では、研究課題と研究デザインについて検討し研究計画書を作成する。後半では研究内容に関する精査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。以下は、論文作成までの流れである。 1. 研究課題の設定 2. 先行研究のレビューと学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの収集（介入・調査） 5. データの整理と分析 6. 論文の作成	向谷地・橋本
	高齢者福祉学	高齢者福祉学特論、高齢者福祉学演習等をつうじて修得した知見を踏まえ、高齢者福祉学領域に関連する修士論文を作成する。前半では、研究課題と研究デザインについて検討し研究計画書を作成する。後半では研究内容に関する精査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。以下は、論文作成までの流れである。 1. 研究課題の設定 2. 先行研究のレビューと学習・評価 3. 研究計画書の作成 4. データの収集（介入・調査） 5. データの整理と分析 6. 論文の作成	大友
	教育福祉学	教育福祉学特論、教育福祉学演習等をつうじて修得した知見を踏まえ、教育福祉学領域に関連する修士論文を作成する。前半では、研究課題と研究デザインにつ	白石

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>いて検討し研究計画書を作成する。後半では研究内容に関する精査・評価等を行い、論文作成のための具体的な指導を行う。以下は、論文作成までの流れである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題の設定</li> <li>2. 先行研究のレビューと学習・評価</li> <li>3. 研究計画書の作成</li> <li>4. データの収集（介入・調査）</li> <li>5. データの整理と分析</li> <li>6. 論文の作成</li> </ol>	

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

社会福祉学原理 志水担当分

修士論文（100％）による評価

障害福祉学 向谷地・橋本担当分

修士論文（100％）による評価

高齢者福祉学 大友担当分

修士論文（100％）による評価

教育福祉学 白石担当分

修士論文（100％）による評価

**【参考書】**

社会福祉学原理 志水担当分 必要に応じて、適宜紹介する。

障害福祉学 向谷地・橋本担当分 必要に応じて、適宜紹介する。

高齢者福祉学 大友担当分 必要に応じて、適宜紹介する。

教育福祉学 白石担当分 必要に応じて、適宜紹介する。

**【学修の準備】**

当該分野における最新の研究動向を踏まえ、関連する文献等に対する分析的な理解が必須である。